様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２７１３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ０２６１２

研究課題名（和文）未就学児を養育する母親が遭遇するネガティブサポート及びそのインパクトに関する研究

研究課題名（英文）Negative social support experiences and their impacts on mothers of infants/preschoolers

研究代表者
木村　美也子（KIMURA, MIYAKO）

聖マリアンナ医科大学・医学部・講師

研究者番号：８０６３５４４１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　5,900,000円

研究成果の概要（和文）：　未就学児の母親が遭遇するネガティブサポート（NS,不適切な支援）の実態とそのインパクトを明らかにするため，質的調査（母親/専門職他26名対象）・量的調査（各都道府県100名，計4,700名の母親対象）を実施した。母親らの4～5人に1人は妊娠期から子育て期に遭遇した様々なNSにより，医療専門職や子育て支援提供者に相談することを止めたり，頼りたくないという思いを抱いていた。また未就学児の母親の受援力尺度を開発し，信頼性・妥当性を検証した。
　量的調査は，実施後4か月目のパンデミック期に追跡調査を実施することができたため，パンデミック期特有のNSの実態とそのインパクトについても探索することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究により，未就学児の母親が遭遇する多様なNSについて明らかになり，NS体験がその後の援助要請の障壁となる可能性，受援力低下につながる可能性が示唆された。また本研究で開発した受援力尺度は虐待傾向，精神健康とも関連がみられたことから，受援力向上に向けたアプローチの必要性も提起できた。
　パンデミック下では幼い子へのマスクの強要など，特有のNSが発生しており，こうしたNS体験と母親の精神健康との関連も示唆された。

研究成果の概要（英文）：In order to explore experiences related to negative social support and its impacts on mothers of infants and/or preschoolers in Japan, we conducted qualitative studies (26 participants, including mothers and other key people involved in the child's care) and nationwide internet surveys (participants: 4,700 mothers of infants and/or preschoolers, 100 from each prefecture of Japan). Owing to negative support experiences, one out of every four to five mothers hesitated consulting with or did not want to rely on medical professionals or parenting support providers during their pregnancy and child-rearing. To further examine this, we also created a scale for measuring the mothers' capacity to receive support.
Further, since a follow-up survey was conducted four months after the first nationwide internet survey (which was conducted immediately prior to the COVID-19 outbreak), we explored mothers' negative social support experiences related to COVID-19 and the subsequent impacts.

研究分野：公衆衛生学，健康社会学，社会疫学

キーワード：ネガティブサポート　受援力　援助要請　ソーシャルキャピタル　精神健康　Well-being　ストレス対処力SOC　母親

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

2016 年 4 月，東京都の 2005 年から 2013 年の妊産婦死亡率が 10 万人当たり約 4 人であるのに対し，同期間の妊産婦の自殺は約 8.5 人と 2 倍以上であることが公表された。児童虐待相談件数は 25 年間増加の一途を辿り，2015 年時点で 10 万件を超えていた。核家族化，子育ての孤立化も問題視される中，全国で様々な子育て支援対策が展開されてきたものの解決には程遠く，支援につながるか否かは母親本人の Help-Seeking（援助要請）に左右され，また援助が必要な人ほど支援を要請しない/できないという点が国内外で問題視されていた（笠原, 2000）。さらに支援を求めても，ネガティブサポート（不適切な支援）が発生すれば，ソーシャルサポートによるポジティブな影響を上回るほど，精神健康や well-being に有害な結果をもたらすという。そうであれば，ネガティブサポートの除去を目指すことが一案ではないかと考えられたが，わが国では，多様な問題・ニーズを抱える子育て中の母親を対象としたネガティブサポートの研究は全く蓄積されておらず，ネガティブサポートが母親の支援への希求や受援への思いにどう関連するのかを検討した研究もみられなかった。さらに内閣府は災害が起こった際の地域の「受援力」（支援を受ける力）の必要性を訴えており，受援力を個人のセルフケア支援・援助関係構築に応用することの重要性も指摘されていた（宮本, 2015）が，個人の受援力に関してはまだ指標も確立されていない状態であり，具体的に調査研究に応用し，そのメカニズムと効果を検証することはできていなかった。

２．研究の目的

未就学児の母親の，子育て支援過程で発生し得るネガティブサポートとそのインパクトを，受援者の援助要請を含む行動，受援力及びその他の要因との関係から明らかにすることを目的とした。またそのために，受援力の概念整理，指標の開発及び関連要因について検討し，ネガティブサポート，援助要請その他の要因との関連を解明することで，受援者に向けた新たなアプローチを提言したいと考えた。

３．研究の方法

本研究は質的調査・量的調査によって実施した。尚，当初は子育て支援過程におけるネガティブサポートに焦点をあてて探究するつもりであったが，妊娠，出産時のネガティブサポートもその後の母親の援助要請や支援者への信頼感などに強く関連する可能性が考えられたため，妊娠期から調査時点までのネガティサポート体験をその対象とした。

(1) 母親を対象とした質的調査(26 名)　2017-18 年度

母親の視点から何がネガティブサポートとなり得るのか，それがどのような変化をもたらしたのかを明らかにするため，母親を対象としたインタビュー調査を実施した。リクルートは，子育て支援センター，子育てサークルなどを通じて参加者を募り，個別もしくはグループインタビューを実施した。

(2) 支援者を対象とした質的調査（17 名）2018 年度

支援者の視点から母親の認識したネガティブサポート（上記１）を支援者の視点からどうとらえるか等を検討するため，専門職（保健師/看護師，保育士，助産師）及び子育てサロンスタッフ，子育て支援サークル主催者等にインタビュー調査を実施した。リクルートは，保健師看護師，保育士，子育てサロンスタッフについては，A 自治体，専門職の職能団体に本研究の趣旨を伝えていただき，参加の意思のある対象者を募った。そして参加の意思を伝えた参加者に対し，個別のインタビューを実施した。助産師，その他のリクルートに関しては機縁法により行った。

(3) 母親を対象とした量的調査（インターネット調査）2019-2020 年度①②

(1)(2)の結果を踏まえた上で，全国の母親（各都道府県 100 名ずつ，計 4,700 名）を対象としたインターネット調査①を実施した。

①の調査実施直後に新型コロナウィルス感染症（COVID-19）がパンデミックとなり，学校などが一斉休業になるなど社会状況が大きく変化したこと，この時期に特徴的なネガティブサポートが発生している可能性が考えられたことから，①の 4 ヶ月後に同対象者に追加調査②を依頼し，実施した。

４．研究成果

(1) 母親を対象とした質的調査

未就学児を養育している母親 26 名への個別/グループインタビューにより，母親が体験したネガティブサポートの実態について把握した。インタビューでは，「保健師」「助産師」「保育士/幼稚園教諭」「栄養士」「医師（産科・小児科・歯科）」「児童館の職員」など，特に子どもが乳幼児期に関わることの多い職種の言動に関する体験が語られた。具体的には，【母乳育児への圧】【過度に感じられる保健師からのフォローアップ】【医師・保健師からの一方的な断乳指導】【子育て支援における融通性のなさ】などであった。また，支援を提供する側からの

「ママだから」「ママじゃないと」という言葉は,「重し」「ストレス」「孤独を感じる」ものとして語られ,「母親にとって一番（大事なこと）は子育てでしょう」との諭しのように受け止められる場面もあった。そして子どもの預け先がない状況等からも，母親たちは“子育ては母親の役割”とする役割分業志向を感じ取り,「全部私がやらなきゃいけないの？」との反発につながっていた。最も多くみられた unmet support needs は【柔軟性のある保育の受け入れ】【母親の実状に即した子育て支援】であった。例えば産後うつ状態で「本当にしんどくって，もう自分消えちゃいたいぐらいだった」母親が,「わらにもすがる思い」で一時保育に申込みをしたところ，就業していないことを理由に断られ，その対応の仕方に「奈落の底に突き落とされた」など，極限状態でも母親の援助要請が聞き入れられないという体験が複数，語られた。

(2) 支援者を対象とした質的調査

子育て支援に関わる支援者ら（保健師/看護師，保育士，助産師，子育てサロンスタッフ，子育て支援サークル主催者等）17 名へのインタビュー調査から，自身が体験したネガティブサポートの事例（母親に対する支援が意図せぬ結果となってしまった例など）について探索した。そして，支援者と受援者の間にどのような認識の違いがあるのかを検討した。

授乳指導は最も早い時期の子育て支援の１つではないかと考えられるが，母親たちに「辛かった」という体験が多くみられたため，ここでは助産師（3 名）の語りから,【ニーズに反した母乳育児支援】を例に挙げる。これは，母親のニーズに反した非効果的な支援と助産師が認識したものの１つであり，心に残る経験として語られた。例えば，育児に不慣れな母親の身体的・精神的負担軽減のために看護者による児の一時預かりや人工乳の補足を提案したものの,「おっぱいが出てないから言われてる」「私のおっぱい駄目だった」と母乳への意欲や自信を失った母親の発言を受けたといい,「（母親の気持ちの）汲みとり方は難しい」という助産師の苦慮が示されている。このように支援者が受援者から意図せぬ捉え方をされ，それを表現された時，初めてネガティブサポートとなったことを認識するわけであり，それが以降のネガティブサポートの抑制につながるのではないかと考えられた。

(3) 母親を対象とした量的調査（インターネット調査）

①未就学児を養育中の全国の母親 4,700 名を対象とした WEB 調査（第１回）2020 年 2 月

【妊娠・出産・子育て期のネガティブサポートの実態】

妊娠・出産・子育て期に体験したネガティブサポートについて多岐に亘り回答を得，その実態について量的に把握することができた。母乳指導をつらく感じたことがあるかどうかについて尋ねたところ,「そう思う」が 19.0%,「どちらかと言えばそう思う」が 24.1%と計 43.1%がつらく感じており，自由記述には「母乳指導で，助産師同士の意見の相違で，板ばさみになり追い詰められたことがあった。」「助産師さんが「こういう風にするの！」と子どもの頭部を乱暴に押さえて（母乳）指導してきました。子どもの頭や耳が痛そうで，悲しかったです。その他心ない言葉で悲しかったことも沢山あります」などの体験がみられた。また，妊娠から出産までの間に助産師・看護師の言動で不快になり，相談するのを止めたことがあるかどうかについては,「そう思う」が 8.1%,「どちらかと言えばそう思う」が 16.2%と計 24.3%,（医師では計 22.9%），子育て支援提供者の対応に不満があったため，もうそこには頼りたくないと思う」かどうかとの問いに対し,「そう思う」（6.3%）,「どちらかといえばそう思う」（17.3%）と計 23.6%が回答しており，4～5 人に１人がこうした経験を有していることが明らかになった。こちらも自由記述には,「ワンオペ育児に疲れてしんどくて市の子育て支援に電話をして一時預かりを頼もうと思ったけれど「空きがない」「前もって連絡するように」「まだ頑張れる」「もっとしんどい人はいる」と言われて，市は全く頼れないし何のための相談窓口，一時預かりなのかと絶望した。」「元夫の助けが全く無い中，家事・育児に追われて精神的に辛かったとき，自分の子供に不満をぶつけて怒鳴ったり叩いたりしたい気持ちに自分でも不安を感じたため，役所の窓口で相談したが「考え過ぎ」の一言で返されてしまった」など多くの体験が記されていた。

【受援力尺度の開発】

当該調査は受援力の尺度開発を目的の 1 つとしていたため，①のデータ（n=4,700）を用い，未就学児の母親に向けた受援力尺度を開発した（表１参照）。因子分析の結果，未就学児の母親の受援力は「受援の機会を活用しようとする姿勢」（ 5 項目α= 0.82）と「受援に対するためらいと抵抗」（3 項目α= 0.80）の 2 因子で構成されており，それぞれ十分なα係数が得られ，かつ類似概念とも関連がみられたことから未就学児の母親の受援力の指標として信頼性，妥当性が概ね得られたと考えられた。また，調査時において数ヶ月の間に子を叩いた経験がある母親は 1,683 名（35.8%）であり，これらを「虐待傾向あり」とすると,「受援の機会を活用しようとする姿勢」が見られない母親ほど虐待傾向があり，精神健康が不良であることが示された（いずれも $p<0.001$）。

表 1. 未就学児の母親の受援力尺度因子分析（n= 4 ,700）

	因子	因子Ⅱ	共通性
Ⅰ．受援の機会を活用しようとする姿勢 (5 項目 α= 0.823)			
2.専門職（医師・看護師・助産師・保健師等）からの助言はできるだけ聞くようにしている	**0.72**	0.23	0.57
4.困っている時に誰かに手伝いを申し出られたら、お願いする	**0.71**	-0.06	0.50
1.他人の支援はありがたく受け入れる方だ	**0.70**	-0.04	0.49
5.困っている時は、誰かに相談する	**0.69**	-0.05	0.47
3.自分や子どもを心配してのことであれば、保健師らの訪問や電話も受け入れる	**0.66**	0.14	0.46
Ⅱ．受援に対するためらいと抵抗 (3 項目 α= 0.800)			
7.他人に手伝いを頼むことには遠慮や抵抗がある	0.01	**0.83**	0.69
8.困っている時でも、できるだけ他人の力を借りずに自分自身で解決する	0.02	**0.77**	0.60
6.困っている時に「大丈夫ですか」「困っていることはありませんか」と聞かれても、大丈夫だと答えてしまう	0.06	**0.66**	0.44
因子寄与	2.43	1.80	
寄与率(%)	30.35	22.53	
累積寄与率(%)	30.35	52.88	

【ネガティブサポート体験と援助要請，受援力その他の関連要因の検討】

ネガティブサポートは援助要請を阻み，受援力の低さ，望ましくない行動と関連する可能性が示唆された。例えば，妊娠から出産までに「助産師・看護師」「医師」の言動で不快になり，相談するのを止めたことがある母親，妊娠から出産後１年位までの間に医療機関や行政の窓口（電話相談も含む）などで不快な思いをしたことがある母親，乳幼児健診時の「医師」「保健師」の対応を不快に思い，相談するのを止めたことがある母親，医療者によって言うことが異なり，誰の言うことを信じればいいのかわからなくなったことがある母親ほど，「受援の機会を活用しようとする姿勢」のスコアが有意に低く，乳幼児健診では質問されたことに対し，本当のことを答えないことがあった，という経験を有していた（属性等で調整した結果，偏相関係数は全てが有意であった $p<0.001$）。

② 追加調査（第 2 回）2020 年 6 月

【COVID-19 流行期に生じたネガティブサポートの実態】

①の参加者 4,700 名に追加のインターネット調査への参加を依頼し，2,489 名から回答を得た（回答率 53%）。①の調査終了直後に COVID-19 がパンデミックとされ，第一回目の緊急事態宣言などが出されたため，3-5 月の COVID-19 の影響が最も大きいと考えられる時期のことについての質問を多くした。また，不快な体験/困難な体験について自由記述を求めたところ，COVID-19 流行時特有のネガティブサポートと考えられる体験が多くみられた（Nvivo による頻出語を図１に示す）。ネガティサポートに関する内容分析では，子どもに対してかわいいねと触ってくる【子への接触】，マスクができない子どもに話しかける【子への声掛け】，7 ヶ月の乳児にマスクするよう威圧的に言われる【幼い子へのマスクの強要】，子どものために仕事を休めと言われる【仕事を継続することに対しての干渉】，毎日休みで羨ましい，休みなんだからもっと家事育児できるでしょう，など実情にそぐわないことばを掛けられる【楽/得をしているとの誤解】などが共通体験として抽出された。

さらに支援が得られない状況【健診の機会の喪失】【保育・教育・交流の機会の喪失】により，子の発達や成長に及ぶ影響を危惧する声も多く表出されていた。またこうした状況から「孤立」「孤独」といった記述もみられ，「子ども以外の誰ともまともな会話をしていない」など，他者との接点が失われている状況が明らかになった。

そして，１人親の場合は仕事を失う，病児の母親の場合は自身の感染時に預け先がないなど，より困難な状況にある母親が苦境に立たされている可能性も示された。

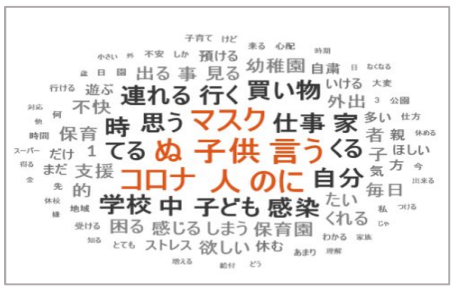

図 1.
ネガティブサポートに関する自由記述の頻出語
（Nvivo を使用）

【COVID-19 流行前と流行期の母親の精神健康とネガティブサポート体験との関連】

t 検定で 2 時点の母親の精神健康(K6 スコア，得点が高い程精神健康が不良)の平均を比較してみると，2020 年 3～5 月のネガティブサポート体験あり群，なし群共に第 1 回調査から第 2 回調査に至るわずか 4 か月の間に精神健康の有意な悪化がみられた（表 2)。

K6 スコアを 0～4 点（問題なし)，5～12 点（何らかの問題がある可能性)，13 点以上（重度のうつ・不安障害が疑われる）に分類し，カイ二乗検定を行ってみると，第 1 回調査・第 2 回調査共にネガティブサポート体験あり群はなし群に比べ，0～4 点の割合が少ないことがわかる（表 3)。ただし，2020 年 3～5 月のネガティブサポート体験がある群は，第 1 回調査時点の精神健康もネガティブサポート体験なし群に比べて良好でないことから，より精神健康の良好でない群がサポートをネガティブに受け止めやすい可能性，ネガティブサポートに対して脆弱である可能性も考えられた。今後，ネガティブサポート体験がどのようなインパクトをもたらしたか，より詳細な検討を行ってゆくつもりである。

表 2. ネガティブサポート体験の有無と 2 時点の K6 スコアの平均値 (n=2,489)

	第 1 回調査		第 2 回調査		
	平均	SD	平均	SD	*P* 値
ネガティブサポート体験なし(n=2,110)	5.0	5.2	5.9	5.1	p<0.001
ネガティブサポート体験あり (n=379)	5.8	5.7	7.0	5.4	p<0.001

SD: 標準偏差

表 3. ネガティブサポート体験の有無と K6 スコア (3 分類) (n=2,489)

	第 1 回調査					第 2 回調査				
	ネガティブサポート体験なし		ネガティブサポート体験あり			ネガティブサポート体験なし		ネガティブサポート体験あり		
K6 スコア	n	%	n	%	*P* 値	n	%	n	%	*P* 値
4 点以下	1173	(55.6)	185	(48.8)	0.015	948	(44.9)	131	(34.6)	<0.001
5 ～ 12 点	776	(36.8)	152	(40.1)		967	(45.8)	196	(51.7)	
13 点以上	161	(7.6)	42	(11.1)		195	(9.2)	52	(13.7)	

以上，質的・量的調査により，妊娠，出産，子育て期におけるネガティサポートの実態と，COVID-19 という非常事態下に生じる特異的なネガティブサポートの実態について，明らかにすることができた。また，こうしたネガティサポート体験と援助要請，受援力，精神健康などとの関連も明らかになりつつある。

2021 年 6 月現在，本研究による論文を 3 本（国際誌 2 本，和文誌 1 本）投稿中であり，今後はネガティブサポートとその関連要因について，ソーシャルキャピタルやストレス対処力 SOC なども含め，メカニズムを深く探求するための分析を急ぎ，発表するつもりである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 Kimura M, Kimura K, Ojima T	４．巻 11
２．論文標題 Relationships between changes due to COVID-19 pandemic and the depressive and anxiety symptoms among mothers of infants and/or preschoolers: a prospective follow-up study from preCOVID-19 Japan	５．発行年 2021年
３．雑誌名 BMJ Open	６．最初と最後の頁 e044826
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2020-044826	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 木村美也子，尾島俊之	４．巻 38
２．論文標題 未就学児を養育する母親の受援力尺度の信頼性と妥当性	５．発行年 2020年
３．雑誌名 社会医学研究	６．最初と最後の頁 41-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kimura M, Ojima T, Ide K, Kondo K.	４．巻 32
２．論文標題 Allaying Post-COVID 19 Negative Health Impacts Among Older People: The “Need To Do Something With Others”? Lessons From the Japan Gerontological Evaluation Study	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Asia Pacific Journal of Public Health	６．最初と最後の頁 479-484
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/1010539520951396	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 木村 美也子，尾島 俊之，近藤 克則	４．巻 41
２．論文標題 新型コロナウイルス感染症流行下での高齢者の生活への示唆： JAGES研究の知見から	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本健康開発雑誌	６．最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32279/jjhr.20200602	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kimura M	4．巻 13
2．論文標題 Negative social interactions and coping behaviors: experiences of Japanese mothers caring for children with special needs in disaster areas	5．発行年 2020年
3．雑誌名 BMC Research Notes	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13104-020-05087-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kimura M	4．巻 5
2．論文標題 Experiences related to prenatal testing among Japanese mothers of children with disabilities.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Women's Reproductive Health	6．最初と最後の頁 183-203
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/23293691.2018.1490082	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kimura M & Yamazaki Y	4．巻 なし
2．論文標題 Having another child without intellectual disabilities: Comparing mothers of single child with disability and mothers of multiple children with and without disability	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Journal of Intellectual Disabilities	6．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/1744629517749129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kimura M	4．巻 10
2．論文標題 Social determinants of self-rated health among Japanese mothers of children with disabilities	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Preventive Medicine Reports	6．最初と最後の頁 129-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.pmedr.2018.02.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計35件（うち招待講演　3件／うち国際学会　21件）

1．発表者名 Kimura M, Ide K, Ojima T
2．発表標題 The impact of social support, capacity to receive support, and concerns about child's development on maternal mental health during COVID-19
3．学会等名 The 52nd Asia Pacific Academic Consortium of Public Health Conference 2021（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Kimura M, Yamazaki Y, Ide K, Ojima T
2．発表標題 Social support, sense of coherence, social capital and psychological well-being among mothers of young children during COVID-19 pandemic
3．学会等名 The 52nd Asia Pacific Academic Consortium of Public Health Conference 2021（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Kimura M
2．発表標題 Negative social support, hesitation in seeking-help and loneliness among vulnerable populations
3．学会等名 The NVivo Virtual Conference（国際学会）
4．発表年 2021年

1．発表者名 Kimura M
2．発表標題 Analyzing free descriptions related to experiences of negative social support during the COVID-19 pandemic
3．学会等名 The NVivo Virtual Conference（国際学会）
4．発表年 2021年

１．発表者名 木村美也子
２．発表標題 未就学児の母親のパンデミック前・以降のメンタルヘルスの変化：就業状況による違い
３．学会等名 第94回日本産業衛生学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 木村美也子
２．発表標題 子どもに対して「育てにくさ」を感じている母親の精神健康の変化と新型コロナウィルス感染症流行時に求められる支援－新型コロナウィルス感染症流行前と流行期の比較から－
３．学会等名 第47回日本保健医療社会学会大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kimura M, Kimura K, Ojima T
２．発表標題 How COVID-19 impacts maternal mental health in Japan? A follow-up study
３．学会等名 2020 WPA Thematic Congress on Intersectional Collaboration（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kimura M, Kimura K, Yamazaki Y
２．発表標題 Negative social support during COVID-19 pandemic: Experiences among mothers of babies and/or young children in Japan
３．学会等名 2020 WPA Thematic Congress on Intersectional Collaboration（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 木村美也子，山崎喜比古
２．発表標題 新型コロナウィルス感染症流行時に生じた ネガティブサポートと母親の精神健康への影響
３．学会等名 第79回日本公衆衛生学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kimura M
２．発表標題 Communication with obstetric providers: Experience of mothers of children with special needs
３．学会等名 International Conference on Communication in Healthcare（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kimura M, Yamazaki Y
２．発表標題 Effect of negative support on the dynamics between health experts and mothers of young children
３．学会等名 International Conference on Communication in Healthcare（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 木村美也子，山崎喜比古
２．発表標題 子育て期の親が遭遇するネガティブサポート―障がいある児と共に被災した親の体験から―
３．学会等名 第46回日本保健医療社会学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kimura, M
２．発表標題 Positive and negative support concerning prenatal testing in Japan
３．学会等名 The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 木村美也子
２．発表標題 子育て支援を受けているお母さんのホンネって?
３．学会等名 子育てサロンスタッフ研修（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 木村美也子
２．発表標題 出生前検査で明らかにならなかったわが子の障がいとの遭遇―母親にとっての出生前検査の意味と求められる情報・支援とは―
３．学会等名 第45回日本保健医療社会学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 木村美也子
２．発表標題 特別な支援を必要とする子どもの親の被災後の危機意識と行動変容
３．学会等名 第28回日本健康教育学会学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 木村美也子
２．発表標題 妊娠，出産，子育て期の女性が遭遇するネガティブサポート
３．学会等名 川崎市立看護短期大学（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 木村美也子
２．発表標題 支援を要する子どもを被災地で養育する親の受援への思いと姿勢
３．学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kimura, M
２．発表標題 Voices of Japanese women who carry multiple burdens: Woman, mother, caregiver, and disaster victim. Relationship between social inclusion of children with disabilities and positive change in their mothers' psychological well-being
３．学会等名 The 51st Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kimura, M
２．発表標題 Relationship between social inclusion of children with disabilities and positive change in their mothers' psychological well-being
３．学会等名 The 51st Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kimura, M
２．発表標題 Associated factors with the mental health of mothers taking care of children with disabilities: After the Great East Earthquake and the Kumamoto Earthquake
３．学会等名 The 51st Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 木村美也子
２．発表標題 実践研究を世の中に発信するために－リサーチクエスチョンの立て方と実現可能な研究方法
３．学会等名 第60回社会医学会総会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kimura M
２．発表標題 Relationship between social support, sense of belonging to local community, loneliness, and sense of coherence among mothers in Japan.
３．学会等名 The 9th Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 木村美也子，山崎由美子，山崎喜比古
２．発表標題 なぜ子どもを産み育てることが難しいのか？わが国における「母親役割」と求められる支援.
３．学会等名 第59回日本社会医学会総会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kimura M, Yamazaki Y, Yamazaki Y
２．発表標題 Negative support experienced by Japanese mothers with special needs in gynecology hospitals.
３．学会等名 16th International Conference on Communication in Healthcare（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kimura M
２．発表標題 Inadequate support in Japan for disaster victims with children with disabilities.
３．学会等名 The 50th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kimura M
２．発表標題 How different sources of social support relate to sense of coherence among Japanese mothers of children with disabilities.
３．学会等名 The 50th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山崎由美子，木村美也子，山崎喜比古
２．発表標題 乳幼児を養育する母親が育児支援を受ける過程で体験したネガティブサポートとは？
３．学会等名 第77回日本公衆衛生学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 木村美也子
２．発表標題 出生前検査と障がい児の出生　その実態と今後の課題
３．学会等名 第77回日本公衆衛生学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kimura, M, & Yamazaki, Y
２．発表標題 Mothers' acceptance of their children's diagnosis: What are the key factors?
３．学会等名 The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yamazaki Y & Kimura, M
２．発表標題 How to support pregnant women who previously lost a baby due to medical malpractice
３．学会等名 The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kimura M, & Yamazaki Y
２．発表標題 Impact of the fear of disability in future children and inadequate support on mothers with disabled children in Japan
３．学会等名 The 49th Conference of the Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kimura, M
２．発表標題 Social determinants of health among mothers of children with disabilities in Japan
３．学会等名 The 21st World Congress of Epidemiology（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 木村美也子，山崎喜比古，山崎由美子
２．発表標題 すれ違う専門職者の常識と障がいある児を妊娠・出産した母親の思い
３．学会等名 第76回日本公衆衛生学会総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kimura, M
２．発表標題 Opportunities for screening of unborn babies: The problems related to prenatal diagnosis in Japan
３．学会等名 15th World Congress on Public Health（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

１．著者名 Kimura M (Edited by Cavaliere Paola)	４．発行年 2022年
２．出版社 MHM Publishers	５．総ページ数 未
３．書名 What negative social support occurred during the COVID-19 pandemic? Experiences among mothers of infants and/or young children in Japan (in Handbook of Disaster Studies in Japan)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

未就学児を養育する母親のネガティブサポート体験に関する全国調査報告書
幼い子を養育する母親が体験した新型コロナウィルス感染症流行時のネガティブサポート調査結果報告書
特別な支援を要する児を養育する親のネガティブサポート体験-被災時に焦点をあて-調査結果報告書

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山崎　由美子 (YAMAZAKI YUMIKO) (00341983)	川崎市立看護短期大学・その他部局等・教授 (42729)	インタビュー調査分担
研究分担者	山崎　喜比古 (YAMAZAKI YOSHIHIKO) (10174666)	日本福祉大学・社会福祉学部・教授 (33918)	
研究分担者	吉田　穂波 (YOSHIDA HONAMI) (20626113)	神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・准教授 (22702)	削除：平成29年7月21日

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	尾島　俊之 (OJIMA TOSHIYUKI)		
研究協力者	井手　一茂 (IDE KAZUSHIGE)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	木村　一輝 (KIMURA KAZUKI)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関